

福岡県大学・研究者後援会ニュース 125 号

発行：福岡県大学関係者・研究者日本共産党後援会 2025 年 8 月 8 日

事務局：〒812-0018 福岡市博多区住吉 5-6-14

いのちの声に応える政治へ全力

参議院議員 白川容子

福岡県大学関係者・研究者後援会の皆さん、猛暑のなかの参議院選挙、奮闘お疲れ様でした。ご支援ありがとうございました。

日本共産党は比例で2議席という結果になり、率直に言って複雑な気持ちですが、私は皆さんと力を合わせて勝ち取った議席の重みをしっかりと受け止めて、新しい国会でたたかい抜く決意です。

衆議院に続いて参議院でも与党を過半数割れに追い詰めました。東京選挙区の吉良よし子さんの3期目の当選、候補者を一本化した野党共闘の戦いで「オール沖縄」のタカラさちかさんをはじめ、愛媛のながえ孝子さんや、高知・徳島の広田はじめさんなどの当選を勝ち取ったことが大きな力となりました。



さあ、新たなたたかいへのスタートです。大変な国会になるでしょう。差別や分断ではなく、つなぐ手の輪を大きくして、いのちの声に応える政治をつくるため全力で頑張ります。

大学教員宛のアピールを郵送しました

事務局次長 貫橋宣夫

7月投票で行われた参議院選挙において日本共産党が後退したことは残念でした。福岡選挙区の山口ゆうとさんも及びませんでした。しかし、西日本を地盤にした白川容子さんが当選したことは喜ばしいことでした。

参院選にあたり、本会は会員有志 18 名のアピールを発表しました。アピールは、「自公政権の悪政をただし、立憲主義をまもるため日本共産党の政策実現にご協力ください」とのタイトルで、「自公政権による財界優先・米国いいなりの政治をやめさせる」、「学術会議の独立性、自主性を守ろう」、「大学・学生問題」、「軍事優先、防衛費増額路線反対」、「気候危機に対して」、「裏金真相解明・団体献金の禁止を」について詳述し、共産党の政策への理解を求めるものでした。

本アピールを九州大学、九州工業大学、北九州市立大学、久留米大学、久留米工業大学、久留米工業高等専門学校に現職教員宛に郵送しました。公示日前に届くよう 2001 通を 6 月 27 日に発送しました。

経費は、本会予算、会員内外のカンパによってまかないました。



原発裁判で勝利するには

原発なくそう！九州玄海訴訟原告団
共同代表暫定代行 神谷杖治

私は、50 年反原発運動を続けています。

これまでの原発訴訟の確定判決は全て原告敗訴です。これだけ負け続けるのには、必ず明確な理由がある筈です。

ここで、皆さんに確認しておいて欲しいことがあります。最高裁は中立ではなく、国策である原発の推進派なのです。被告側に偏った立場なのです。更に、最近の最高裁は原発推進の法律事務所と人事の交流をしていて、推進派との癒着を公然と示しています。全国

の裁判官は、人事権を最高裁に握られていますので、最高裁に付渡し、原告敗訴にするのです。

原発訴訟に関する最高裁判例は伊方判例です。

これは最高裁自身を拘束します。この判例は2つの項目になっています。

(一) 原発が安全であるかどうかを裁判所が直接判断するのではない

(二) 規制基準の合理性と、それに適合するとした行政庁の判断が合理的か否か、特に看過しがたい不合理があるかどうかを…判断するのが相当であるとされています。

「直接判断しない」と言っているので、原告が原発の危険性を指摘し、被告が反論する訴訟では、裁判官は双方の言い分を理解して判断をしなくても良いのです。確定判決では、被告の言い分を引用して「被告の主張は合理的である、信頼できる」などと一方的に宣言して、原告敗訴にしてきました。

それでは、この現実で勝訴するにはどうすれば良いのでしょうか。

伊方判例の2番目の項目「規制審査に特に看過しがたい不合理がある」と立証すれば良いのです。ここで、被告と議論になったら意味がありません。負けます。子供でも分かる平易な主張で、反論がでない立証をすれば良いのです。

「そんな虫の良いことがあるか？」と思われるでしょうが、あるのです。

規制審査では、「大破断 LOCA で、全交流電源喪失で ECCS 注入失敗した」として審査を始めています。大口径配管が破断して大量の冷却水喪失が起き、全交流電源が喪失して ECCS ポンプが働かず、注水失敗と言ったのです。この時、九電は「この状態で、炉心と圧力容器を守る手段は一切ない」と言い、規制委もそれを認めました。これは大嘘で、特に看過できない不合理です。

沸騰水型には、非常用復水器 IC がついています。「沸騰水型で有効なら加圧水型でも有効だろう」とは子供でも思いつくことです。IC とは、「炉心での沸騰で出来た水蒸気を上方の冷却器に導き、冷やして水に戻す装置です」。戻った水は重力で自然に落下しますので、それを圧力容器に入れれば、電源がなくとも炉心の冷却ができます。

「一切ない」のは大嘘で、ちゃんと手段はあるのです。子供でもわかることです。九電も規制委もプロですから、沸騰水型に IC があり、それが有効だとは知っています。知っていて「一切ない」と嘘を言うのですから、特に看過しがたい不合理です。

「IC が有効なのに、一切ないと言うのは特に看過しがたい不合理だ」と言えば、被告も最高裁も反論ができません。まだ多くの不合理がありますが、紙面の制約で紹介できないのが残念です。

もう一つ、上方に冷却水補充タンクを備えておけば、非常時にタンクの底の栓を抜けば、水は電力がなくとも重力で自然に落下しますので、それを圧力容器に入れれば冷却ができます。「上のタンクの底の栓を抜けば水は落ちる」などということは子供でも理解でき、「一切ない」は特に看過できない不合理だと言え、被告も最高裁も反論はできません。まだ多くの不合理がありますが、紙面の制約で紹介できないのが残念です。

これで、被告と議論にならず、子供でも分かる平易な主張で、伊方判例にある「規制委審査に特に看過しがたい不合理がある」と立証できたのです。

伊方判例は、最高裁判例ですから、最高裁は原発推進派であっても拘束を受けます。これで確定判決が原告勝訴になります。

勝利の確信を持って頑張りましょう。

誤った政策は誤った結果を招く

国立大学教員 谷本 純一

論文引用数が韓国、イランに抜かれ 13 位となったという衝撃的事実、これがすべてを物語っている。選択と集中は、学術において適用されるべきではない。というより適用できない。旧ソ連・ロシア、あるいは多くの独裁国家がスパイ行為に依存する理由は、それらの国が邪悪だからではなく、依存せざるを得ないからであり、またそれが最も効率が良いからに他ならない。自由民主主義政治体制における教育システムは、アントニオ・グラムシが正しくも指摘した次の内容にもとづかなければならない。

一国の資力はまさにそれが生産する富およびその生産方法によるのであり、弁護士の無駄話や天才による桁外れの発明によるものではない。天才はあまりにも突然変異的にしか生まれてこないし、それはだれの意味でもどうにもならないのであるから、天才にしたがって計画を立てることはできない。たゆまぬ労働、小規模の競合、専門教育の普及のみが幸福の指標となり、歴史の功労証書となりうるのである（Antonio Gramsci, *Quaderni del carcere*, edizione critica dell'Istituto Gramsci, a cura di Valentino Gerratana, Einaudi, 1975, Q13, § 7, pp. 1565-1566. 山崎功監修『グラムシ選集 I』合同出版、1961 年、195 頁。必要に応じ独自訳）。

「選択と集中」なるものはまさに「天才」を「意思」によって生もうとする試みに他ならない。そして、自国がかつて輩出した「天才」への不合理な崇拜を招くであろう。それは、過去を見ているのであり、断じて未来を見てはいない。過去、特に自国の過去にばかり目を向ける

ということは、必然的に排外主義的傾向を生み出さずにはいられないであろう。日本が現代の湯川秀樹を、アメリカが現代のトーマス・エディソンを、ドイツが現代のアルベルト・アインシュタインを、フランスが現代のルイ・パスツールを生み出そうとしても、それは二番煎じにとどまる。そうではなく、各国が各々の湯川、エディソン、アインシュタイン、パスツールを、現代にふさわしい形で生み出さなければならない。「たゆまぬ労働、小規模の競合、専門教育の普及」のみがそれを可能にし、「突然変異」の可能性を高めるのである。

当然、こうした営みは、経営的観点から採用することは不可能である。というより、経営的計算と「突然変異」あるいは「偉業」とは本来真っ向から対立する。経営活動においては、ハンナ・アレントが述べたように「社会は、それぞれの成員にある種の行動(ビヘイヴィア)を期待し、無数の多様な規則を押しつける。そしてこれらの規則はすべてその成員を『正常化』し、彼らを行動させ、自発的な活動や優れた成果を排除する傾向をもつ」(志水速雄訳『人間の条件』ちくま学芸文庫、1994年、64頁)ことになる。学生の生活困窮や運営交付金の減額、異様な数の副学長ポスト、さらには教員の業務負担の多さは、まさに「偉業」を成し遂げる可能性を奪っているものであり、この現状を放置したままで論文引用数の少なさを嘆くべきではないのである。

囲碁とAI (2/3)

本会会員 貫橋宣夫

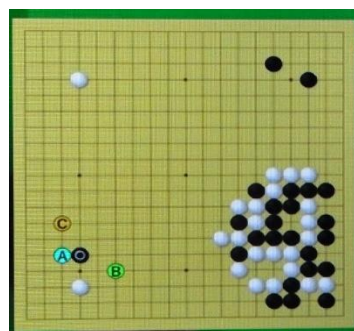
囲碁AIが急速に力をつけた要因は、コンピューターの性能が飛躍的に向上したこともあります。

現在、囲碁AIと人間のトップとの差は2子の差があると言われています。ご存じのとおり、アマチュアの囲碁ではハンディ戦が普通に行われますが、プロの世界ではハンディ戦はありません。黒番(先番)が有利なので、黒番を当てた者は6.5目のハンディを課せられます。0.5目というのは、引き分けを避けるための配慮です。人間に対して囲碁AIが2子のハンディを負うということは決定的な差を意味します。

囲碁AIに人間は勝つことができないという事実直面して、囲碁関係者ががっかりと氣落ちしたことは事実です。しかし、時間の経過のなかで思い返しました。「人間は空を飛ぶことでも、水中を移動することでも、地上を走ることでも船、飛行機、自動車に勝てるわけがない。計算能力で敵わないことはとうにわかっていた。ならば囲碁というゲームでコンピュータ

一に負けたとしても何ら恥じることはない」と。囲碁の面白さは、人間と人間が知力を競い合うことなのだ、と改めて思いました。

現在では、公開の場でプロ棋士が、「この局面ではAI先生はどう言っているか調べてみましょう」と簡単に口にしています。NHKの囲碁番組、NHK杯争奪戦では、AIが示す両対局者の勝率を1手ごとにグラフで表示し、AIが示す次の有力手をA、B、Cで表示ししています。【写真説明 上の写真は黒番の棋士の勝率が現在のところ57パーセントであることを示している。下の写真は、次の白番の着手点を価値の高い方から順にA、B、Cで表している】



プロ棋士のあいだで囲碁AIに対する姿勢は世代によって違います。ベテランの世代は伝えられてきた定石、手筋を学ぶことによって実力をつけてきました。そのため、AIが「こちらの地点に打つほうが勝率が高い」と示してもなかなか納得がいけないということがあるようです。これに対して、若い世代の棋士はAIが示す最善点について思い込みや偏見が少なく、そこから研究や検討に力を入れています。若い頭脳が新しい状況に素早く対応できるのは囲碁の世界に限ったことではありません。しかし、近い将来囲碁AIが身近なものになり街の碁会所で幼年期から囲碁AIに接して囲碁を学ぶ世代ではもっと変わった状況が生まれるでしょう。ベテランが若手に追いつかれていくということは、何も囲碁の世界に限ったことではありません。

日本の囲碁の3大タイトルの一つである棋聖戦では、対局者は各々8時間の考慮時間を持ち、二日間にわたって戦います。そして、7番勝負によって勝負を決めます。人間が出しうるかぎりの知力を尽くして勝敗を決めることに現代人は再び魅力を感じているのです。



大きな魚を捕獲したアオサギ。呑み込むことができたろうか。写真撮影 貫橋宣夫会員